

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
E1121024		音楽史基礎(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)(The fundamental history of the music)														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
必修	2	3	教育学部			氏名 松田 聡 E-mail matsat@oita-u.ac.jp 内線 7616										
授業の概要	西洋音楽史の大きな時代区分、代表的作曲家、日本音楽史の主要なジャンル、及び民族音楽の概説等、音楽史の基本的な事柄について学び、中高の教科書に掲載される鑑賞教材等に基づく授業をするのに必要な基礎的な知識を身に付ける。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 西洋音楽史の時代区分や代表的作曲家についての基礎的な説明ができる。																
目標2 日本音楽史における主要な各種目について基本的な説明ができる。																
目標3 世界の諸民族の音楽について具体例を挙げることができる。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 授業ガイダンス																
2 西洋音楽史(1):中世・ルネサンス																
3 西洋音楽史(2):バロック																
4 西洋音楽史(3):古典派																
5 西洋音楽史(4):ロマン派(1):19世紀前半																
6 西洋音楽史(5):ロマン派(2):19世紀後半:西欧																
7 西洋音楽史(6):ロマン派(3):19世紀後半:非西欧																
8 西洋音楽史(7):近現代(1):19世紀末~20世紀初頭																
9 西洋音楽史(8):近現代(2):20~21世紀																
10 日本音楽史(1):概観と雅楽																
11 日本音楽史(2):声明、琵琶楽、能楽																
12 日本音楽史(3):箏曲、尺八楽、三味線音楽																
13 日本音楽史(4):舞台芸能																
14 世界の諸民族の音楽(1):アジアの音楽																
15 世界の諸民族の音楽(2):アジア以外の諸国の音楽																
ラーニング	A:知識の定着・確認	毎回、ワークシートへ記入させるなどして、学生の理解度を確かめる。				工夫	録音・映像資料による音楽等の鑑賞を多く取り入れる。									
	B:意見の表現・交換					その										
	C:応用志向					他										
	D:知識の活用・創造					の										
時間外学習の内容と時間の目安	準備	次回の内容に関する自身の知識を確認しておく(15h)。														
	事後	各回の内容を振り返り、関連作品を自主的に鑑賞する(15h)。														
教科書	教科書は指定せず、資料を配付する。															
参考書	授業中に適宜、指示する。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	授業への参加度	40%														
	試験	60%														
全授業回の3分の1以上を欠席した場合や試験が未受験だった場合は端を認めない。																
注意事項	初回到授業についての基本的な説明をするので、受講希望者は必ず出席すること。															
備考	なし															
リンク																
	URL															